

## 令和7年度 第3回 都市におけるイノベーション創発のあり方に関する検討会 議事概要

日時：令和7年12月17（水）10:00～12:00

場所：オンライン会議

### 【全体：位置づけ・目的、記載の具体性について】

- 将来の展開につながるステップとして、政策の方向性へのメッセージとなる取りまとめとなると良い。
- 全体として抽象的な表現が多い印象を受ける。P27の「コミュニケーターの重要性」なども、具体例を補足することで、読み手にとって理解しやすくなるのではないか。

### 【ゴール設定と政策的な集中について】

- 何を達成すべきか、明確なゴール設定のうえでバックキャストして都市のあり方を考えることが不可欠であり、また日本全体としてどこにリソースを集中させるのかという視点が重要。散漫な投資ではクリティカルマスに到達しない。
- どのようなイノベーションを目指すのかというゴール設定の重要性や、日本全体としてのリソース配分の視点は、抽象的な議論だとしても取りまとめとして触れる価値のあるポイント。記述の工夫を検討してほしい。

### 【イノベーションの定義と波及効果について】

- 都市における集積によるイノベーションの効果として、その成果が他地域に波及することで国全体に便益をもたらす側面にも意義がある。取組主体の連携だけでなく、成果を享受する側への波及も含めて整理されるとよい。

### 【オフィスストック・空間の多様性について】

- P28でネイバーフッド単位での用途混在や機能集積に言及された点は重要である。加えて、イノベーションを支えるオフィスストックの多様性が不足していることが、各地でボトルネックになっている。都市計画の枠組みの中で、立地や規模の異なるオフィス供給を誘導する視点を明示してもよいのではないか。
- スタートアップの成長段階に応じた空間の多様性は不可欠である。賃料上昇により初期段階の事業者が排除されないよう、未利用不動産の活用なども含めた視点が重要である。

#### 【専門人材の役割について】

- P23 について、「ステークホルダーマップ」や「三位一体」という表現について、具体的に誰が関与すべきかが重要。これらの主体を把握するにはイノベーション分野ごとに専門的な関係者が不可欠であり、当該分野の全体像を捉えられる専門人材を外部から積極的に関与させることが実行性確保の鍵となる。
- 推進にあたって専門人材が担う役割について追記・修正、記載の工夫を検討してほしい。

#### 【評価指標の考え方について】

- 評価指標のあり方について整理されている点は重要。都市規模や地域特性によって、求められるイノベーションの内容や成果は異なるため、画一的な指標を示すことは必ずしも適切ではない。まずは評価の考え方を共有する段階に留めるという今回の整理が望ましいと考えている。